

住民参画による学校づくり ～地域学や学校行事への住民参画による地域と共にある学校の実現～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
北川村立 北川小学校	北川村保小中学校運営協議会 2020年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	北川村保小中学校 地域学校協働本部
北川村立 北川中学校	北川村保小中学校運営協議会 2020年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	北川村保小中学校 地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校の子ども達は「自分の考えや思いを相手に伝えること」に対して、学校評価アンケート等の結果から課題が見られた。この課題を改善していくためにも、学校運営協議会を設置し地域や保護者・行政が参画し村の子どもの現状を話し合い子ども達の「自己肯定感」「表現する力」「生活リズム」「人間関係の固定化」等の改善を図るため熟議を行い、15歳までに育ててほしい子どもの姿を設定した。現在、小中学校9年間を見通し、生活科や総合的な学習の時間を地域学(北川学)と位置付け、村民や企業との協働活動の中から、地域の良さや課題を子ども達の視点で捉え、発達段階に応じた探究的な学習活動に取り組んでいる。

目標や目指す姿(学校)

自立・協働・貢献(すすんで・みんなで・みんなのために)自ら考え、まとめ、学び合う児童・生徒(表現力・コミュニケーション力を高める活動を通して)

目標や目指す姿(地域)

ふるさとへの愛着と誇りを持ち、学ぶ意欲にあふれ、未来を切り拓く社会性豊かな子どもを育む



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

小中学校だけではなく保育所も加えた保小中一体的な組織化を図り、15年間を見通した子どもの育成を目指している。特に、地域教材をテーマにした探究的な学び「北川学」の活動において、運営協議会で活動内容や協力してほしい内容を伝え、地域人材や企業等の協力を得ながら活動の充実を図っている。



学校運営協議会 定例会

地域学校協働活動

趣旨に賛同して頂いた地域住民や企業の協力を得て、「北川学」の活動を実施。代表的な例としては、本村の特産物であるゆずを使用した石けんづくりに大手化粧品会社の協力を得ている他、地元のゆず農家やゆず製品製造・販売企業の参画を得ながらプロジェクトを推進。



ゆず石鹸プロジェクト(中2)

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

【取組・課題の共有化と組織の再編】これまで地域学校協働本部の組織は設立されていたものの、参画する人材が限定されており幅広い活動とはなり得ていなかった。そのため、運営協議会で学校の取組や課題を共有するとともに、教育委員会とも連携を図りながら、全ての住民にパンフレットを配布するなど広報に努め、新たに登録制のボランティアとして組織の充実を図った。

成果・効果

【指標】

	指標1	指標2	指標3	
	自分にはよいところがある(肯定的な回答)	地域の中で自分ができる事はないか考えることがある。(肯定的な回答)	地域ボランティア登録者数(年間登録者数)	
R1	92%	76%	84%	97%
R3	98%	100%	74%	95%
				25名
				85名

【学校や参画する地域住民等の声】

- ◆村の人々だけではなく企業の方々の協力のおかげで、北川村のゆずを全国にPRできることを誇りに思う。(中3年生徒)
- ◆地元のゆず農家による収穫体験や化粧品会社に生徒自らが自分たちの思いを伝えてプロジェクトを実行することができ、生徒の地域への愛着や貢献意識が高まった。(教員)
- ◆子どもたちが村の活性化を考えてくれていることは大変ありがたい。これからは学校だけではなく村全体が活気づくように学習に協力したい。(地域住民)

指標1:道徳調査より青は小学校、赤は中学校の状況 指標2:指定事業授業振り返り調査より青は前半調査、赤は年度末調査結果の状況

- ◆子ども達が地域の良さを享受するとともに、地域の課題を解決しようとする意識が高まり、自己肯定感の向上に大きく寄与。
- ◆地域の課題解決に向けた探究的な学びを通して、地域への貢献心が向上。
- ◆学校の取組を地域住民に幅広く周知したことによる、学校教育活動への理解促進とボランティア登録者数の増加。